

第 12 部 ソフトウェアのテスト

1976年にマイケル・ファガン (Michael E. Fagan) がインスペクションについての論文を書いて[FAG76]、それをきっかけにレビューの重要性が認識されてそれが定着するまで、テストが欠陥 (バグ) を発見する唯一の方法だった。しかし今では、ソフトウェアの中に埋め込まれた欠陥は原則としてテストまでの段階で、レビューによって可能な限り発見して取り除き、テストは適切にソフトウェアが開発されていることを確認することに加えて、レビューでは発見しにくい機能／非機能の要求の実現を確認するということに役割が変わってきた。しかしそれでも、ソフトウェアの品質を向上させる上でのテストの重要さは、少しも変わっていない。

第 12 部では、そのテストについて考える。最近ではレビューも「静的テスト」などと呼んで、広い意味でのテストの一部と考える考え方が定着してきている^{1,2}。しかしここでは「動的テスト」と呼ばれている、これまで通りのいわゆる狭い意味でのテストについて考えることとする。

具体的には、第 30 章ではそのテストの進め方を、第 31 章ではテストの種類などについて考える。そして第 32 章では、テストの結果を利用して開発中のソフトウェアに残存している欠陥の数を推定する方法について述べる。

略語

ITSQB : International Software Qualification Board

人名

マイケル・ファガン (Michael E. Fagan)

参考文献とリンク先

[FAG76] M. E. Fagan, “Design and code inspections to reduce errors in program development,” pp182-211, IBM System Journal, Vol.15 No.3, 1976, IBM.

このペーパーは次の URL で、IBM のホームページからダウンロードすることができる (確認日 : 2017 年 (平成 29 年) 1 月 13 日)。

<http://www.research.ibm.com/journal/sj/382/fagan.pdf>

¹ 例えば、ITSQB (International Software Testing Qualification Board) はレビューを「静的テスト」、これまでのテストを「動的テスト」と呼び、両者をこの「テスト」という言葉の中に包含している。

² レビューについては、すでに第 18 章で述べた。

